『子どもたちの安全・健康のために』

１。園外保育・散歩について

“何かいつもと変わった様子があった場合には、必ず登園時にお知らせください”

当園では、自然の中で子どもたちが季節を感じたり、地域の方々の働く姿を見たり、直接園内にはない環境に関わることができる園外保育・散歩も子どもたちにとって大切な活動のひとつと考えています。

一方で、保育園等での園外保育・散歩中の事故（交通事故等）が多発、また、無差別殺傷事件も増えたり、日本各地で大規模地震に対する注意喚起もされている状況もあります。こうした状況を踏まえ、当園では園外保育・散歩のさらなる安全確保の方法を検討し、次の通りに実施しています。

（１）保育園の敷地外において行う全ての保育活動については、**必ず前１ヶ月から２週間までに下見をし、安全確認**を行います。必要な場合は、直近に再度下見を行います。

（２）子どもの人数に関わらず、１グループにつき、**緊急時に対応すること（緊急連絡者・安全確保・応急手当者・AED 手配）も想定した複数の職員が同行できない場合は、散歩には出かけません**。

（３）下見をもとに事前に引率職員全員で打合せを行います。

➡ その際、当日体調が心配な子、いつもと様子が違い配慮が必要な子等についても共有します。そのことも含め、引率職員でどんな対応ができるか確認し、安全確保できないと判断した場合は活動を変更・中止することもあります。（当該児は園に残り他クラス等で保育することもあります。ご承知おきください。）
そのため、**何かいつもと変わった様子がある場合は、必ず登園時にお知らせください。園外保育・散歩の予定は事前に各クラス前の掲示板等で保護者へもお伝えします。**

２。登降園時について

“子どものいのちを守るのは大人の責任です”

保育園の役割のひとつとして、保護者同士が同じ子育て中の仲間として繋がりを持てるきっかけになれたらと願っています。そんな思いから、降園時に園庭で保護者の皆さんが交流されている姿は、とても嬉しく大切に考えたい部分です。

しかし、この時間帯の子どもたちの動きには要注意です。大好きなお家の方がお迎えにみえて、嬉しくなってそのまま車道へ走っていく…なんてこともあり得ます。子どもたち自身では、まだまだ身の安全を十分には守ることはできません。せっかくの楽しい時間だったはずが取り返しのつかないことにならないように、**降園時の引き渡し後、或いは、登園時の駐車場からの移動は、保護者の責任でお子さんの安全確保を**お願いします。**「車から降りたら必ずお家の人と手を繋ぐ」「一緒に移動する」習慣をつけていきましょう。**

＜こんな姿は危険です＞

- □カバンを背負ったまま遊具で遊ぶ
- □アメ等食べ物を口に入れながら登園する

窒息の恐れがあります

- □保護者から離れて、ひとりまたは友達と園外を走っていく
- □子どもを車内に残して離れる
- □エンジンをかけたまま車から離れる　他

３。園での汚れ物対応について

“原則、お子さんの持ち物の管理は保護者にお願いします”

保育中に起こる以下の状況については、次のように対応します。子どもたちが存分に遊び、自分で身のまわりのことをやってみる中での育ちを大切にしたい思いから、衣類が汚れたり、様子で園でも洗濯させていただくことがあります。また、保育中ということから簡単な対応となること等ご理解いただき、園に着て来る衣類の判断をお願いします。何かありましたらお知らせください。

状況	対応
尿	・そのままビニール袋に入れて持ち帰る（衣類・シーツ・おねしょシーツ） ・布団…園で干すまたは保護者の判断で持ち帰り対応していただく
普通便 *※手袋着用*	・パンツ…なるべく便を便器に落とし、***汚物用水道にて水洗い***し、ビニール袋に入れて持ち帰る ・オムツ（持ち帰り家庭）…なるべく便を便器に落とし、ビニール袋に入れ、***口をしっかり縛り***持ち帰る（おしっこのオムツの***ビニール袋に入れて二重***にする）
下痢・嘔吐 *※手袋着用*	・汚染した衣類等は、できるだけ汚物を取り除き、***そのままビニール袋に入れて***持ち帰る または、***保護者の意向を確認し、園で処分***する ※『嘔吐や下痢で汚染された衣類の消毒方法』用紙を保護者へ渡す
鼻血等の出血 *※手袋着用*	・***汚染箇所を【水洗い】***し、ビニール袋に入れて持ち帰る ※お湯では血液が固まり落ちにくい
食べこぼし	・未満児用エプロン…汚れがひどい場合は***【水洗い】***し、ビニール袋で持ち帰る 米粒程度であれば、取ってそのままビニール袋で持ち帰る ・以上児用ナフキン…牛乳や汁物等をこぼした場合、汚れ具合により水洗いをし、 ビニール袋に入れて持ち帰る ・その他の衣類…そのままビニール袋に入れて持ち帰る
泥	・冬季の上着…拭き落としたり日向等で干し汚れを払う ・手袋等防寒具…上着同様　汚れにより水洗いし、降園時に間に合えば干して乾かし、 身に付けて帰れるようにする ・春～夏季…以上児は『泥んこ遊び用の服』を家庭でご用意いただき、そのまま持ち帰る （泥んこ遊び時のカラー帽子は園で洗濯）***※洗剤が必要な場合は、極少量で*** ・その他の衣類…汚れがひどい場合は水洗いし、ビニール袋に入れて持ち帰る ***※洗剤が必要な場合は、極少量で*** ・靴…汚れがひどい場合は、日向等で干し汚れを払う
汗	・衣類…そのままビニール袋に入れて持ち帰る ・カラー帽子（きく～以上児）…毎日持ち帰り家庭で管理していただく ・長保で使用する子どものものは、園で洗濯する等、必要に応じて対応する

乾燥機は縮むため注意です

４。個人情報の扱いについて

“個人情報を許可なく使用することは禁止です”

保育園は、子どもたちが安心して生活できる場所でなければなりません。子どもたちに望ましくない影響が起こりうることはお控えください。子どもたちや家族、園職員の写真等を許可なく撮影する、撮影した写真や個人情報等を許可なく使用することは禁止です。保育園では、園での子どもたちの様子を保護者や地域の皆様へお伝えするために、おたよりに添付し配布や掲示をしたり、TV や新聞社等の取材が入ったりすることがあります。何かご事情がある場合には、配慮いたしますのであらかじめお知らせください。

5。けが、かみつき、ひっかき、けんかは起こります

“お子さんの成長発達、情緒の様子等、情報共有をして一緒に見守っていきましょう”

保育園は集団生活の場です。それぞれ違う家庭環境の中で生活してきた子どもたちが一緒に過ごすようになると、ひとりひとりの自我の表現や自己主張の手段の形としてさまざまなことが起こります。例えば、興味が同じことによる物や場所の取り合い、他者への興味、以上児になってくるとお互いの思いのぶつかり合い等が原因です。徐々に言葉の獲得も進んでいきますが、「それ、ぼくの」「やってみたいな、それ」「わたし、やだ」…こういった気持ちがあっても、まだまだ自分の気持ちをうまく表現することができません。中には、通りすがりにかみついたり、ひっかいたり…という姿も見られることもあります。

これは、成長過程のひとつで、私たちは、「子どもたちが育っていく上で必要な子ども同士の関わり合い・育ち合い」と考えています。保育園としては、もちろん、けがや事故が起こることが予想される危険な物的環境は取り除いたり、置き方を変えたり、また、かみつきやひっかき等については、職員の立ち位置を確認し合いできる限り止めたり、子どもたちの発達段階に合わせて、幼いながらも言葉でその気持ちを表現できるように、また相手の気持ちにも気付けるように働きかけもしていきます。しかし、ただ表面的に『けが、かみつき、ひっかき、ケンカ』を無くすことだけを考えようとすると、子どもの気持ちを抑えつけた「子どもに禁止するばかりの保育」「子どもにルールを押しつけた保育」となり、子どもたち自身は、「自己表現の方法」や「友達との適切な関わり方」を学ぶ機会を失ってしまいます（不適切保育）。

子どもたちにはそもそも誰かを傷つけようという気持ちがなく、「〇〇ちゃん、すき」「あそぼう」といった他者への興味からこのような行動に出ることもある程です。こうしたことから私たちは、保育の専門家として、子ども達の様子を見守り、他のお子さんのおもちゃを取ろうとする子がいたら「使いたいのかな？『かして』って言ってごらん」と伝える等、その子の気持ちを汲み取る努力をします。

また、固定遊具等の使用についても、個々の姿に合わせて、やってみたい気持ちや子ども自身が自分で安全な身体の使い方を学んでいけることを大切にしながら解除する等必要な援助に努めます。けれども、時として声がけや働きかけが間に合わないこともあります。何かお預かり中に起きた場合は、速やかに適切に処置をして、保護者へのお伝えします。

もしもお子さんが園や別のところで誰ががかんだ等あった時には、ただその行為だけを見て注意するのではなく、「どうしてかんだの？」と優しく尋ねてください。「悪い子！」と言ってしまったら、お子さんは心の中にある気持ちを表現できなくなってしまいます。まだ言葉でうまく言えないからかんだりひっかいたりするので、言葉にできなくても怒らないで、『その子が何を伝えたかったのか』気持ちを受け止め、「〇〇すると、痛いんだよ」「言えるようにしていこうね」と優しく伝えてあげてください。

また、変わった姿がある時には、きっと何かを伝えようとしているのだと思います。ご家庭での様子をお知らせください。園も一緒に気にかけお子さんの思いを感じ取り、育とうとしている心の動きを大切に一緒に見守っていきたいと思います。遊具等へ挑戦する姿も同様です。「最近、まだうまくできないんだけど繰り返しこんな挑戦をしている姿がある」「興味があるみたい」こんなふうに情報をいただけましたら、よりきにかけて見守ることができ助かります。園も同様のことが見られましたらお伝えしていきます。お子さんの姿、情緒の様子等を共有して、その時々のお子さんの成長段階を理解し、一緒に子どもたちが保育園でのびのびとお友達と関わり合いながら育っていく姿を見守っていきましょう。

★ご承知の通り、日本の保育士配置基準は非常に少なく、子どもたちの安全を最低限確保する、保育の質を維持・向上という点からも不十分です。飯田市についても少しずつ改善されてきていますがまだ十分ではありません。保護者の皆様からも市及び国に対して「保育士の配置基準の見直しを」とお伝えいただければ幸いです。